

圓覚寺 護持会会報

文殊

令和2年 新春号



ごこうしゆいあみだぶつ 五劫思惟阿弥陀仏

阿弥陀如来がまだ法蔵菩薩として修行をしていた頃、いかに悩める衆生を救ったらよいであろうかと、五劫(21億6千万年以上)の間考え抜き、思惟を重ねるうちに頭髪が afroヘヤーのようになってしまった、可愛らしい仏さま(文殊堂玄関にお祀りしてあります)

令和2年 第9号

令和2年度の主な行持予定

- 1月 1日(水) 修証会(元朝互礼会) 10時・11時の2回
12日(日) 大般若法要(大般若経六百卷の転読祈願法要)
2月 15日(土) 涅槃会(お釈迦様ご命日)
3月 17日(日) (予定) 圓覚寺彼岸会(春彼岸入りの日)
28日(日) (予定) 護持会決算・予算会
4月 29日(水) 和敬会花まつり(石原:洞玄寺)
5月 8日(金) 降誕会(お釈迦様ご誕生祭)・円覚寺花まつり
5月 27日(水)~29日(金) 梅花流全国奉詠大会(札幌市)
7月 3日(金) 中丹梅花奉詠大会(厚生会館)
4日(土) 仏教文化大講演会(厚生会館)
日 子供禅の集い(大本山永平寺)
7月末~8月初旬 遠方棚経
7月 26日(日) (日時調整中) 圓覚寺境内作務(役員・会員他)
8月 1日(土) 土師観音盆供養・夜施餓鬼(施食会連夜)
2日(日) (予定) 土師墓地お墓掃除(お檀家一軒に一人)
6日(水) 8:15 原爆追悼平和の鐘
8月 8日(土) 孟蘭盆大施食会(並ニ、初盆大施食会)
9日(日) 綾部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面棚経
10日(月) 前田方面(早朝)・市内方面棚経
11日(火) 土師宮町区・土師新町東区棚経
12日(水) 土師新町南区棚経
13日(木) 土師町区棚経
14日(金) 孟蘭盆(お盆寺参り、午前中本堂開放)
16日(日) 丹波大文字送り火(法要:厚生会館)
8月 22日(日) (日時調整中) 地藏盆参り(遠方)
8月 23日(日) (日時調整中) 地藏盆(土師新町南、地藏堂)
9月 19日(日) (予定) 圓覚寺彼岸会(秋彼岸の入り)
9月 22日(水) (予定) 彼岸参り(遠方)
10月 17日(日) (予定) 仏教振興会研修旅行
11月 15日(日) (調整中) 土師地区出身戦没者追悼慰霊祭
12月 8日(水) 積尊成道会、未修年忌供養等併修
13日(日) 大すす払い
31日(水) 除夜の鐘・歳末調経

- 毎月1日午前6時半 読経会(朝のお勤め会) 1月を除く
毎月第1・3金曜日 梅花講詠讃歌(日時変)
毎月第1・3火曜日 午前10時 寿会写経会(日時変)

圓覚寺護持会役員紹介

Table with columns: 任期 (平成三十一年四月~令和四年三月まで), 代表・役員(敬称略), 代表・総務 (伊東 高志), 墓地管理 (芦田 忠義), 会計 (芦田 幸雄), 会計監査(敬称略) (芦田 正吾), 運営委員 (伊東 かね子, 芦田 敏彦, 芦田 誠一, 高橋 信司, 田口 真理子, 木下 勝成, 足立 豊一, 芦田 俊朗, 芦田 義則, 佐藤 清司, 佐藤 洋司, 伊東 昇, 芦田 均, 芦田 哲一)

令和二年度 年回表

Table with columns: 回数 (一周忌, 三回忌, 七回忌, 十三回忌, 十七回忌, 二十五回忌, 三十三回忌, 五十回忌, 百回忌), 年没 (令和元年, 平成三十年, 平成二十六年, 平成二十年, 平成十六年, 平成八年, 昭和六十三年, 昭和四十六年, 大正十年)

【編集後記】

新年明けましておめでとうございます。昨年は五月から新しい元号に変わりましたが、何となくはなれな気分が華やいだ心持がいたしました。ラグビーのワールドカップでは日本がワンチームで健闘して予選を一位通過し、ベストエイトに進むという大健闘でにわかファンも盛り上がりましたし、十月には即位礼正殿の儀、十一月には祝賀御列の儀が晴天の下で行われおめでたい事でした。祝賀パレードが十一月に延期になりましたように、今年も相次ぐ台風と豪雨のために関東から上信越にかけて大きな災害に見舞われました。被災された方々がどんなお正月を迎えられたか案ずるところであります。幸いにも当地区では風雨被害もなく穏やかな年で幸運でした。お寺に於きましても住職に三人目のお孫さんが誕生され、おめでたく平穏な年でありました。諸般の事情で総代の残る一名が決まらないのが非常事態と言えるかも知れません。今年もお気軽にお集まり願えるお寺を目指して総代始め役員一同頑張りますので宜しくお願い致します。

発行所 圓覚寺護持会会報編集部 住所/京都府福知山市宇土師一七七 電話/〇七七三(二七)四四四七

会計担当総代 芦田 幸雄

賀 春



住職 成田大航

令和最初の新年あけましておめでとうございます。

いよいよ本年七月二十四日、二度目のオリンピックが開催されます。五十年代まではおそらくは記憶に無い、初めての経験なのではないでしょうか。昭和三十九年のオリンピックが日本に与えた衝撃とは比較になりませんが、少しでも人の心が明るく元気になって欲しいものです。

あつという間の人生



昨今、百年という単位で続けられてきた様々な伝統や習慣が大きく変わる局面にきているようです。地域社会では人と人との繋がりが希薄になり、親戚や同族間のお付き合いも以前とは大きく変化し、それぞれのお家の宗教観も全く変わってきています。ここ数十年という短い期間に、私たちの生活の中で「電子データ」という魔法を手に入れてから、世界が激変したのではないのでしょうか。コミュニケーションの手段が、それまで何千年と続けてきた「対面」

という方法から一挙に飛び越えて、世界中に張り巡らされたネット回線を通じて七十億人の人と同時に繋がってしまうという世界に入ってしまった。

一方で、日本から発信された「禅」は世界中に広く深く浸透してきています。半世紀前、日本から貨物船に乗って大陸に渡った第一世代の海外布教師の方々が蒔いた種は、今世界各地で大輪を咲かせています。日本の修行道場で外国籍の方は当たり前になりましたし、長く安居（修行）している外国籍の僧侶が、新米の日本人僧を指導するという時代になりました。海外から来る欧米の修行僧をみていますと、ネットを使いこの前時代的な「禅の生活」を愉しみ、さらに世界に広めているのが見て取れます。日本では化石のように思われている「禅の生活」は欧米の若者にとっては輝いて見えるようです。一番気づいていないのはたぶん日本人自身ではないでしょうか。

ネットの時代を迎えて、私たち自身、何か特別なことが起こるように勘違いして

いるのかも知れません。世界中に張り巡らされたネットワークが何かをしてくれるわけではありません。人生百年時代といっても成人として活躍出来るのは五十年程度でしょうか。あつという間です。このあつという間の人生で何が大切で何が大切でないかを見極められたら、それは素晴らしい人生であったといえるのではないのでしょうか。間もなく自動運転の車の時代が直ぐそこまで来ています。しかし、どんな未来でも、「わたし」の代わりに旅をしてくれる車はありません。

悩み、苦しみ、喜ぶ「わたし」は変わることはないでしょう。

偉そうなことを申し上げました。本年も檀信徒の皆様にご挨拶と致します。

合 掌



フランス龍門寺での法戦式

謹 賀 新 年

新年明けましておめでとうございます。

昨年の五月の改元以来早くも令和二年目の新年を迎えましたが、檀信徒の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、円覚寺護持会の運営には大変なご理解、ご支援、ご協力を賜っていますことに厚く御礼申しあげます。

さて、護持会も昨年四月に役員の変更があり、各地域から出て頂いている運営委員様はほぼ全員変わりましたが、選考委員様による総代の選考に関しては大変ご苦勞頂いた結果、一名を除く三名の留任となりました。新規の一名については今回は適任の方が決まらず、令和早々三名体制での出発となりました。欠員の後任が任期の途中でも選任されることを期待して待っている所であります。

昨年二月に円覚寺本堂が京都府の暫定登録有形文化財に指定されたことをまずご報告させていただきます。寺院様はもとより檀家各位にとりまして大変光栄で名誉なことと思えます。この文化財の位置づけは、

代表総代 伊東高志

京都府民が歴史、文化、自然を理解し、その地域の特性を考えるために欠くことのない大切なものであるため、その保存・活用（公開）に努めるとの事項が明記されておりです。それだけに諸堂の維持管理には地元だけではなく、もっと広い地域を対象に気配りしながら末永く保存していかねばならない責任が今まで以上に重くなる訳であります。

そうした中で以前からお話しておりますが、今の本堂が建てられてからすでに百九十年ほど経っており、葦根瓦と特に屋根裏の傷みが相当ひどく、早急に改修しなければならぬ時期にきていますと判断しております。従って本年から具体的な改修計画を立て、行政（特に府）等とも打ち合わせしながら、五年後ぐらいの完成を目標に計画を実行に移していきたいと考えている次第です。檀家の皆様方にはこの改修を「令和の大改修」事業と考えていただき、ご理解、ご協力をお願いすることになりますが、まず計画が出来上がりましたらご報告とご説

明をさせて頂く予定であります。

一方、墓地関係につきましても、新たに入壇される方には、墓地を整理する中で出来た新たな区画を積極的に活用して頂いております。今後も順次計画的に無縁墓地の整理改修を進めていきたいと思っております。

本年も円覚寺護持運営には何卒よろしくお願ひ申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。





あだち・ずいじゅ
 1968年京都府亀岡市生まれ。
 兵庫県丹波篠山市・曹洞宗長楽寺住職。
 超宗派の僧侶が法話を披露する
 「H1法話グランプリ」の第1回大会で
 最高賞のグランプリを受賞。
 「観世ふぉん電話相談」
<https://www.kanze-phone.org/>



平成25年の彼岸法要に落語法話として円覚寺にも来て頂きました

じ仏の御子としてお電話を頂く
 方々と共に悩み考え、寄り添っ
 ていきたいと思えます。

紙上 法話

泥中に咲く

— 寄る辺ない時代に —

共に悩み、自問し続ける

現在、私は有志で青年僧侶が
 相談員を務める一般社団法人
 「観世ふぉん電話相談」の代表
 理事を拝命しております。当団
 体は全国曹洞宗青年会の基幹事
 業として、困難に立ち向かう
 人々に寄り添う青年僧侶の人材
 育成、傾聴のスキルアップを目
 指し始めました。

相談員をさせていただいてお
 りますと、現在の日本社会にお
 いて、職、仲間、地域社会の中
 で居場所を失い、「自分は社会
 から孤立している」「死んでし
 まいたい」と感じ、自身の存在
 価値を見出せなくなっている人
 が多いと感じます。

このような社会に生きる人々
 に対する想いを受け止め、活動
 を展開してきました。発足より
 十年を迎え、今年の三月より社
 団法人として、宗派の垣根を越
 えて活動を行っております。

相談者は三十代がもつとも多
 く、生活、会社での人間関係、
 身体の健康不安など内容は様々

です。ひきこもり、発達障がい
 と診断された方は、その区別に
 安堵するとともに、社会からの
 疎外感と悲しみを抱えていまし
 た。

死にたいと訴え続ける方は、
 電話を生活の拠り所としていま
 す。医療の発達なのか、世界の
 常識なのか。現代の社会は他人
 の評価に左右され、区別を付け
 られ、整理される傾向があると
 感じる人々が多いはずですが。

「自身がもし、そのような境
 遇で同じように悩むのなら、ど
 うするか」。私はいつもそう自
 分に置き換えて考えます。しか
 しながら、所詮それは私の至つ
 た社会の経験から来る尺度の問
 題であつて、相談者には到底
 及ばないものです。

私は生まれたのが寺院であ
 り、僧侶になることに戸惑いな
 がら、「東京に行きたい」とい
 う不純な理由で大学に入学しま
 した。卒業後、大本山永平寺に
 修行へ上がり、修行期間に区切

りを付け、いざお寺に戻ると、
 これまでに無かつた苦悩にぶつ
 かることとなります。

大切な方を亡くした遺族、そ
 れぞれの家庭環境、複雑な人間
 関係。計り知れない悲しみ苦し
 みの淵にたたずむ人々に、私は
 呆然とし、かける言葉も見つか
 らないでいました。

いま思い返すと、自身を成長
 させるのは苦悩に満ちた社会で
 あり、日々の僧侶としての経験
 でした。だからこそ、困難を前
 にたたずむ人々と何が出来るの
 かを自問し続けることが大切で
 あると考えるのです。

「社会から孤立している」と
 感じる疎外感は、他人の評価や
 区別とは無関係ではありませ
 ん。それぞれの人が持つ尺度を
 押し付けていることにほかなり
 ません。安易な価値判断を踏み
 とどまる努力が必要なのではな
 いでしょうか。

私は、僧侶として正しく社会
 を見つめる力を日々研鑽し、同

金木犀の香 夏の疲れ忘れさせ

円覚寺梅花講副講長 芦田 紘子

この度、未熟者ですが梅花講
 の副講長という大役を仰せつか
 りまして、皆様には大変お世話
 になっております。主人を見
 送った後、偶然にも御詠歌の募
 集を知りまして、入会させて頂
 きました。お陰様で毎朝のお勤
 めも出来るようになり、大変喜
 んでおります。

御詠歌の方は一向に上達しま
 せんが、月二回の奥様の指導を
 うけながら、新しく入会した者
 同志で楽しく、お互いに励まし
 あいながら先輩講員に追いつこ
 うと頑張っているところです。

又、私は趣味としてコーラス
 をしております。気功の先生で
 もあります前田竹司先生にご指
 導頂いており、コーラスの練習
 の合間には気功を交えながら
 元気をもらっております。

先日、その前田先生が柏木哲

夫著書から抜粋された「心の持
 ちようで人生は変わる」という
 お話をされました。その話は人
 生の実力者がよく使う三つの言
 葉として、

一つ目として感謝の言葉
 「ありがとう」

二つ目のねぎらいの言葉
 「苦勞様」

三つ目の謝罪の言葉
 「ごめんなさい」

人生において幸せになるため
 には、この三つの言葉を出来る
 だけ頻繁に使うように心がける
 ようとのお話を聞き私は心を打
 たれ、皆様にも参考になればと
 思いまして記させて頂きまし
 た。

今後共お世話様になります
 が、ご指導、ご鞭撻のほどよろ
 しくお願い申し上げます。

合 掌



昨年度の主な行事報告

- 1月1日(火) 修証会(元朝互礼会)
10時・11時の2回
- 12日(土) 大般若法要
(大般若経六百卷の転読祈願法要)
- 2月15日(金) 涅槃会(お釈迦様ご命日)
- 3月18日(月) 春彼岸会法要
30日(土) 護持会決算会
- 4月6日(土) 護持会予算会(総代役員選出)
29日(月) 和敬会花まつり(石原、洞玄寺)
- 5月8日(水) 釈尊降誕会(お釈迦様ご誕生)
円覚寺花まつり
- 9日(木) 川北、頼光寺本堂落慶法要
22日、24日(金) 梅花流全国奉詠大会
(熊本市)
- 7月3日(水) 仏教文化大講演会
(講師、枡野俊明師)
- 5日(金) 中丹梅花奉詠大会(厚生会館)
24日(水) 子供禅の集い(多保市、善光寺)
28日(日) 円覚寺境内作務(役員・会員他)
7月末〜8月初旬 遠方棚経
- 8月1日(木) 土師観音盆供養・夜施餓鬼
(施食会連夜)

- 4日(日) 土師墓地お墓掃除
(お檀家一軒に一人)
- 6日(火) 8時15分 原爆追悼平和の鐘
- 8日(木) 孟蘭盆大施食会
(並に、初盆大施食会)
- 9日(金) 綾部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面棚経
- 10日(土) 前田方面(早朝)・市内方面棚経
- 11日(日) 土師宮町区・土師新町東区棚経
- 12日(月) 土師新町南区棚経
- 13日(火) 土師町区棚経
- 14日(水) 孟蘭盆
(お盆寺参り、午前中本堂開放)
- 16日(金) 丹波大文字送り火
(法要：厚生会館)
- 18日(日) 地藏盆(土師新町南、地藏堂)
- 23日・24日 地藏盆参り(遠方)
- 9月25日(水) 秋彼岸会法要&二胡演奏会
21日(土) 彼岸参り(遠方)
- 10月17日(木) 仏教振興会研修旅行
(金戒光明寺と六道珍皇寺)
- 11月17日(日) 土師地区出身戦没者追悼慰霊祭
- 12月8日(日) 釈尊成道会、
未修年忌供養等併修
- 12日(木) 大すす払い
- 31日(火) 除夜の鐘・歳末諷経



大煤払い
12/12

秋彼岸
9/25



秋彼岸の法要後、中国でも活躍される二胡奏者、陳萬麗さん(綾部市在住)に演奏をお願いしました。



伊東高志・芦田幸雄・芦田忠義・佐藤和夫・芦田英雄・花城正明・芦田光照・木下知之
芦田久美子・芦田真美・佐藤美紀・伊東昭子・芦田愛子・芦田早苗・芦田津多恵・芦田慶子
芦田マリ・高橋松美・佐藤良子・高橋郁子・佐藤ゆづる・赤城絹代・小前美佐子・野村多恵子
大島あつ子(敬称略)の皆様が大変お世話になりました。



金戒光明寺：承安5年(1175)、浄土宗開山法然上人が比叡山黒谷を下り、始めて草案を結んで開宗した由緒のある総本山。境内には、五劫思惟阿彌陀如来の仏様が有名。

仏教振興会研修旅行
10/17



六道珍皇寺：清水寺の近く、東山区大和大路にある臨済宗建仁寺派の寺院。此の付近が六道の辻と呼ばれる。六道詣りで有名。